

## 平成 16 年度 教員個人評価（試行）の集計・分析報告書

### 留学生センター

#### 1. 個人評価の実施状況

##### 1) 対象教員数,

留学生センター教員数 7名、但し2名は平成17年度赴任

個人評価実施者数 5名、実施率 100%。

##### 2) 教員個人評価（試行）の実施概要（評価組織の構成，実施内容，方法，など）。

各教員が年度個人目標申請書、個人活動報告書・自己点検評価書を提出。

センター長が各教員の提出書類をもとに平成16年度分についてそれぞれ個人面談を実施した。

センター長の各個人評価概要を各教員に渡した。

センター教員は評価結果についてセンター長に質問可能とした。

17年度赴任教員は平成17年度分の個人目標申請書を提出した。各教員は教育、研究、学生支援、国際交流、組織運営について全体活動に対するそれぞれの重みを付けた。但し、5段階による達成度の評価はしなかった

添付資料（別紙参照）： 個人評価実施基準，及び 個人評価実施指針並びに

活動実績報告書， 自己点検・評価書，及び 個人目標申告書等のフォーマットほか。

#### 2. 評価領域（教育，研究，国際・社会貢献，組織運営，他）別の集計・分析と自己点検評価

##### (1) 教育の領域

##### 1) 評価項目（例： 学部授業担当， 大学院授業担当， 大学院学生指導， 学生生活指導， FD活動， 教育改善の取り組み等）ごとの実績集計と分析。

留学生センター及び教養教育授業担当

各教員は毎週5～7コマの講義を担当、更に週2コマの演習を設けの学生個人毎に補講を実施した。

大学院授業担当 ナシ

大学院学生指導 ナシ

学生生活指導 学生相談時間を毎週各教員が設定し、学生に周知している。

留学生の生活相談、特に経済支援に関する相談は重要であるので、1名の教員は学生生活相談担当教員として、講義担当コマ数を3にし残りに時間を学生相談に当てている。

FD活動

教員は各自で日本語教育研修会等に参加し、自己研鑽に努めている。

教育改善の取り組み 講義のシラバスを作成し、細部にわたった成績評価が厳密に実施されている。

##### 2) 教育の領域における教員の活動評価集計と分析。

##### 3) 教育の領域における部局等の自己点検評価（例： 部局等の教員活動の現状， 優れた活動， 問題点， 改善目標など）。

###### (ア) 教員活動の現状

週7コマの講義を担当し、かなりハードな環境である。

(イ) 優れた点

きめ細やかな講義が実施され、成績評価は細部にわたり具体的な項目をあげて実施されている。例えば、従来の出席、小テスト並びに期末試験の他授業参加度も点数化されている。

日本人学生と留学生との混在授業（Visitor 制度）を実施している。

(ウ) 問題点

- ・ 16年度は一人の教員が病気のために3ヶ月間しか講義を担当できない状況に陥り、それをカバーするために、他の教員は肉体的疲労と精神的苦痛に悩まされた。
- ・ 大学院担当教員がいない。文化教育学部と可能性を協議する必要がある。

(エ) 改善目標

- ・ センター教員の文化教育学部の併任教員制度実施と文化教育学部との連携した講義平成18年度から、3名のセンター教員が文化教育学部と協力して「日本語教員養成コース」を担当するので、センター教員の文化教育学部の併任教員制度について検討する必要がある。
- ・ 短期日本語語学研修制度の実施について検討する必要がある（教員の負担増、非常勤講師、外国人留学生宿舎等）

(2) 研究の領域

1) 評価項目ごとの実績集計と分析。

学術誌に論文を発表し、国内外で発表する

研究成果の発表

学術論文 3報 報告集 1報

国際会議発表 2件

学会発表 7件

その他の講演会 2件

科研費を申請し、補助金獲得に努める

科研費（申請（代表）2件、採択（代表）1件、継続（分担）1件）

教材開発に取り組む

3件

学内外と共同研究を行う

4件

2) 研究の領域における教員の活動評価集計と分析。

学術論文発表数が少ない

科研費の申請が全員でない

教材開発は留学生の日本語教育において不可欠である。教材開発は一部で実施されているが、その成果が明確でない。

学内外との共同研究はよく実施されている。

留学生センターは、外国人留学生に対する日本語教育と生活指導を主とする教育研究施設であるが、講義の負担が大きいせいか、研究成果の口頭発表はなされているものの学会誌等への掲載論文が少ない。但し、他の文系の研究活動と比較する必要がある。

3) 研究の領域における部局等の自己点検評価。

大学院学生の指導がないためか研究活動が教育活動に比べて低い。

留学生センターは佐賀大学で唯一世界を対象とした教育研究施設であるので、外国人留学生教育における研究分野の一層の発展を期待する。

(3) 国際・社会貢献の領域

1) 評価項目ごとの実績集計と分析。

大学間の国際交流に貢献する

- ・留学生の受入と派遣は留学生センターの業務の一つであるので、各教員は、外国における留学生フェアの参加、外国の大学からの日本語教師との面談、外国人講師などを招いたシンポジウムの開催、協定校への留学生の派遣と受入に関する学生相談を実施している。

地域貢献に寄与する。

各教員は、地域住民との留学生懇談会、ガタリンピック、虹ノ松原ボランティア活動などに留学生を引率し参加している。

2) 国際・社会貢献の領域における教員の活動評価集計と分析。

- ・留学生センターは国際交流と切り離せないで、全員、国際交流に関する業務にたずさわっている。詳細は上記参照。
- ・留学生の地域とのつながりは欠かせないので、教員は地域住民と留学生と一緒に参加している（詳細は上記参照）。

4) 国際・社会貢献の領域における部局等の自己点検評価。

教員個々人は日本人学生の海外派遣促進のために、教員は日本人学生に勧めているが、外国の受入大学が一定以上の英語力を要求するために（例えば、TOEFL 550 点以上）留学を断念し、語学研修のために外国に長期あるいは短期留学する学生が多い。

短期の海外留学者数をまとめる必要がある。

(4) 組織運営の領域

1) 評価項目ごとの実績集計と分析。

センター及びあるいは全学の委員会に参加し、協力する。

全学委員会（教養教育協議会、評価委員会、国際貢献推進委員、学生委員、オープンキャンパス委員、セクシャルハラスメント委員会等）

留学生センター（日本語研修コース、日本語総合コース、短期受入プログラムの各コースコーディネーター、留学生生活相談などの委員を担当）

その他、センター内での、人事選考委員、派遣留学生面接、奨学金受給者面接など。

2) 組織運営の領域における教員の活動評価集計と分析。

上記の通り、それぞれ分担して、センター内の委員、全学委員を担当している。

3) 組織運営の領域における部局等の自己点検評価。

センター教員が少ないので、全ての全学委員を担当することは不可能である。

しかし、留学生センターと関わりが深いと思われる委員会には参加している。

(5) 診療等その他の領域（該当部局等のみ）

該当ナシ

### 3. 教員の総合的活動状況評価の集計・分析と自己点検評価

#### ・総合的な集計・分析結果と部局等の自己点検評価。

少ない教員で留学生センターとしての多くのプログラムを運営している。実施しているプログラム数は大大学と遜色ない。

しかし、外国人のための短期語学研修プログラム、留学生の危機管理マニュアルの作成、留学生のための佐賀大学独自の奨学金制度の確立などは、これから取り組まなければならない課題である。

国際貢献室は佐賀大学全体の国際交流に係わる施策、企画を行うところと考えるが、留学生センターとの連携・強化が必要ではないだろうか。

留学生センターの学生指導は学部と違って極めて重要であるので、「学生支援に関する目標と評価」という評価領域を別に追加した。従って、上述の教育領域の学生生活指導に記載されていない学生支援に関する教員活動事項が多数ある。

国際交流と国際共同研究の区別、留学生受入派遣と国際交流交あるいは学生相談の区別がつきにくかった。

#### ・個人評価に関する構成員からの意見を調査している場合は、まとめたものを添付。

評価結果を各教員に渡し、それについて教員から意見があれば聞くようにしている。

#### ・次年度の個人評価実施に向けての改善案が策定されていれば、それも記載。

まだ策定していないが、次のことを検討する必要がある。

教員毎に各領域における評価項目が違うので、集計するのが難しかった。

人数が少ないので統計的な集計は不可能であった。個々のデータの羅列に終わった。

#### ・段階評価試行結果の検討（意義，有効性，活用方法などに関して）及びこれに代わる総合的活動状況評価の集計・分析方法の提案など。

各自が目標を立てて、それについて自己点検するのは教育・研究など各領域の改善に役立つと思う。しかし、この結果を基に、外部評価を受けてはじめて、自己の評価との違いや客観的な評価が可能となると思う。

留学生センターでは外部評価を検討中である。